

第4章 村の地理的、社会的特徴

村は、国民保護措置を適切かつ迅速に実施するため、その地理的、社会的特徴等について確認することとし、以下のとおり、国民保護措置の実施に当たり考慮しておくべき村の地理的、社会的特徴等について定める。

(1) 地形

本州のほぼ中央、松本平の南西部に位置し、東は塩尻市、北は松本市、山形村、西に波田町、南に木祖村と境を接し、3000m級の山峰を連ねる北アルプスと南アルプスの接点に位置する鉢盛山(2,446m)を背にして、北東にゆるく傾斜面を描きつつ、扇状に台地が広がり、東西15.84km、南北9.89km、総面積70.63km²、で、その87%は山林であり、平坦地の標高は740mから900mに展開している。

鎖川は鉢盛山から流れ出す野俣沢と、箱抜きから流れ出す中俣沢、橋戸から流れ出す榎俣沢の3つの川が三俣で合流しさらに舟ヶ沢を併せて東流し、小野沢付近から流路を北に変えて朝日村を横断している。

本村の土壌は、火山灰土層と、鎖川の氾濫原による堆積層、山麓系斜面の崖錐性堆積物に分けられる。火山灰土層は波田ロームとも呼ばれる風成層で御岳・乗鞍岳火山の噴火による降灰とされ、波田礫層を厚く覆っている。「くろべ」と呼ばれ、上部に腐植層をもち、地形的には古見原・西洗馬原などの扇状地を広く覆い、村の野菜生産地となっている。地質的には、主に塊状砂岩層(山地)と洪積層(平地)からなり、鎖川の両岸の段丘及び山地は起伏が大きく複雑であるがその他は地形的複雑さはない。



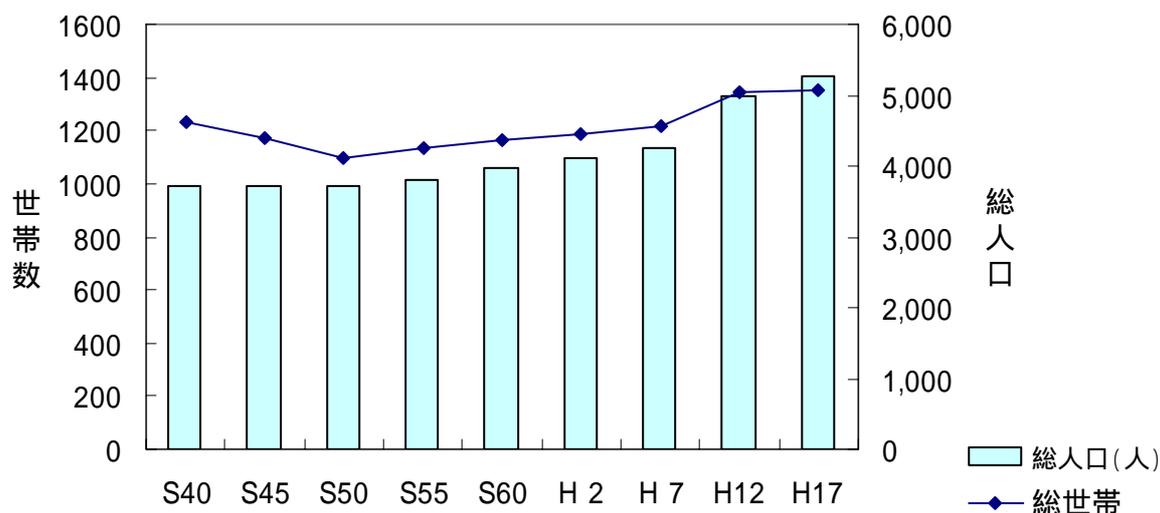
(2) 気候

本村の気候は、年平均気温は10前後で最高33、最低-14と準高冷地の気候を示している。降雨量は一般に少ない内陸型で、冬季は少なく6、7月に集中しており、年間1,000mmから1,500mm程度である。降雪は、11月中旬から翌年の3月中旬までで、降雪量は30cm前後で、結霜は10月中旬から翌年5月上旬の間に見られる。

(3) 人口分布

本村は、松本市・塩尻市に隣接しているという立地条件もあり、それらのベッドタウンとして、世帯、人口ともに緩やかに増加している。平成18年10月1日においては、世帯数1,408戸、総人口5,009人となり、死亡率、出生率ともにほぼ横ばいである。昭和50年より65歳以上の高齢者人口は年々増加しているが、15歳未満の年少人口は横ばいから微増である。

人口・世帯数推移グラフ



(4) 道路の位置等

本村の道路は、県道新田松本線、県道御馬越塩尻停車場線、県道土合松本線を基幹として、各集落を縦横に結ぶ村道針尾幹2号線などが村民の基盤を形成し各市町村への連絡道となっている。

(5) 東京電力新信濃変電所

本村には、国内の電力需要をまかなうために、西は60Hz、東は50Hzの電力の相互のやりとりを行う施設として、周波数変換設備を持った変電所「東京電力株式会社 新信濃変電所」がある。新信濃変電所の周波数変換能力は60万kWでわが国最大の規模である。